



岡崎 乾二郎

視覚のカイソウ

Kenjiro Okazaki - Retrospective Strata

豊田市美術館

2019年11月23日[土]~2020年2月24日[月・祝]

休館日：月曜日、12月28日（土）~1月4日（土）

*ただし1月13日（月・祝）、2月24日（月・祝）は開館

開館時間：午前10時~午後5時30分（入場は午後5時まで）

観覧料：一般：1,300円（1,100円）/高大生900円（800円）/中学生以下無料

*（ ）内は前売り及び20名以上の団体料金

*障がい者手帳をお持ちの方(介添者1名)、豊田市内在住又は在学の高校生、及び豊田市内在住の75歳以上は無料 [要証明]。その他、観覧料の減免対象者及び割引等についてはホームページをご確認いただくか、豊田市美術館へお問い合わせください。

*前売券の販売は11月22日まで。販売場所：豊田市美術館（~10月14日）ほか。

主催：豊田市美術館

協力：株式会社LIXIL、株式会社中川ケミカル

【展覧会内容】

この上なく軽やかに壁に留まるレリーフ。小さなその一つの塊は、しかし建物のように豊かな空間をもち、また見る度に私たちの脳裏に異なる複数の姿を現す。

造形作家、岡崎乾二郎（1955年～）は、初個展「たてもものきもち」でレリーフ〈あかさかみつけ〉シリーズを発表して以来、彫刻、絵画、映像、メディア・アート、建築からテキスタイル作品、舞台美術、絵本、タイル、描画ロボットによるドローイングまで、あらゆるジャンルにおいて最前線で制作を続けてきました。さらに稀有なのは、灰塚アースワークプロジェクトにおける長期的な修景保存活動や四谷アート・ステュディオムにおける教育活動、展覧会のキュレーションや多分野にまたがる批評など、岡崎が造形活動に劣らぬ熱量をもって、個の領分を超えた旺盛な活動を展開してきたことです。それが、およそ一人の人間の行い得る範囲を超えた広がり、知性に支えられた深さをもっているのは、個々の作品のみではなく、それらの作品が生みだされる場所までも岡崎が形成、造形しようとしてきたがゆえと言えるかもしれません。

岡崎は、この世界は決して一元的なものではなく、たがいに相容れない固有性を持ったばらばらな複数の世界から成ると言います。そして、それらが一つに融合されることなく、それぞれの個性を保ったまま交通することが可能となるどこにもない場所が成り立つとき、豊かな創造性が生まれるのだという考えを堅持してきました。表現が何かを代表してしまうことを疑い、抵抗し、もっと周縁的なもの、小さなものが持つ可能性を尊重すること。岡崎の活動が一つに留まることなく、つねに多くの人や事物とネットワークを結び、広げてきたのは、こうした複数世界についての確信の現れだと言えます。

豊田市美術館では、2017年に、岡崎乾二郎の企画監修による展覧会「抽象の力」を開催しました。その展示は、抽象芸術が本来もっていた現実的で具体的な力を明らかにし、一元的なモダニズムの美術史観を軽やかに翻すものとして、多くの刺激と新たな知見を私たちにもたらししました。その次なる試みとして、岡崎自身の作品とその活動の全貌をご紹介します個展を開催いたします。

見ることには、つねに回想することが含まれています。岡崎の作品を見るたびに、私たちのいる空間の階層は次々と入れ変わり、過去、未来そして現在という時間の階層もまた、のぼったりおりたりするように改められていきます。過去に遡ってその仕事を回顧するのではなく、作品を前に回想することで、私たちの感覚が絶えず刷新されていく。この不思議で豊かな体験を、是非、豊田市美術館の空間で実感していただきたいと思います。

【見どころ】

- ・ 2002 年のセゾン現代美術館以来 17 年ぶりとなる、美術館での大規模な個展。豊田市美術館のほぼ全館を使用し、大小様々な部屋ごとに次々と展開する展示を体感していただきます。
- ・ 絵画、彫刻に加え、レリーフ、テキスタイル作品、タイル、ドローイング、ポンチ絵など、多岐にわたる作品を展示。岡崎乾二郎の多面的活動を余すところなく紹介します。
- ・ 初期代表作〈あかさかみつけ〉に先立つ、原点的作品〈かただみのかたち〉を展示。1979 年の B ゼミ展以来、初の展示となります。
- ・ 新作絵画、新作彫刻に加え、新たなタイル作品やドローイングも展示します。
- ・ 岡崎乾二郎が、主著『ルネサンス-経験の条件』で明晰な分析を行った「ブランカッチ礼拝堂壁画」を再現。AR（拡張現実）の技術を用い、各壁画の登場人物たちの複雑な重なり合いを体験していただきます。それにより、岡崎乾二郎の絵画やレリーフ自体が、同じく、様々な色や形の交換・交通によって構成されていることが実感されます。
- ・

【関連イベント】

◎会期中、講演会やギャラリートーク等の開催を予定しております。
詳細が決まり次第、美術館 HP、Twitter 等でお知らせします。

◎作品ガイドボランティアによるギャラリーツアー
木曜日を除く毎日 14:00-（土日祝日は 11:00-、14:00-）
＊参加には当日の観覧券が必要です。

連絡先：豊田市美術館
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町 8-5-1
Tel:0565-34-3131（学芸直通）
E-mail:gakugei@city.toyota.aichi.jp
担当：千葉真智子 鈴木俊晴 北谷正雄

画像等の資料をご希望の方は以下をご記入の上、メール、またはファックスでお送りください。

お名前 _____ ご所属 _____

Tel _____ Fax _____

e-mail _____

掲載紙／媒体名 _____

お電話でも承ります。なお資料の使用には以下の点にご注意下さい。

- 作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮下さい。
- 作品タイトル等のキャプション、クレジットを必ず表記してください。タイトルが長いものがあります。掲載が難しい場合はご相談ください。
- 情報確認のため事前にグラ刷り等をお送り下さい。
- 掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛てにお送りください。
インターネットに掲載した場合はURLをお知らせください。
- 画像の二次使用や転載はお断りいたします。提供するデータは使用后必ず破棄してください。

【申込先】 豊田市美術館

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町 8-5-1

Tel:0565-34-6748（庶務直通） / Fax:0565-36-5103

Tel:0565-34-3131（学芸直通）

E-mail: bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

担当：籠谷、吉兼（庶務担当）

千葉、鈴木（学芸担当）

【広報用画像】



① 《あかさかみつけ》 1981年
アクリル、ポリエチレン 高松市美術館蔵



② 《まだ早いが遅くなる》 1986年 綿布、絹
大原美術館蔵



③ 左《「きみにはわからないわね。こどもだもの」こどもはもじもじしながら、しばらく顔をうごかしていたけれども、ふいに視界からこどもの姿が消えて、ちらりとお尻が水面をよこぎり、もう次の瞬間、水中には白っぽい影があつて底に向かって沈んでいった。澄んだ水面に、ひとつぶ雨が落ちたように、幾重にも同心円がひろがっていく。今気づいたのだが、奇妙なことは何ひとつなかった。たぶん真夜中でも眼は見えるのだろう。昼と夜は分ちがたく繋がっていたのだし、涙でガラスが曇ってしまったも眼鏡に曇はないのだから。「涙でぜんぜん見えないや。だから手を伸ばし、なるべく近くの物を掴んでみるよ」

1997年 アクリル、カンヴァス(2枚組) 豊田市美術館蔵



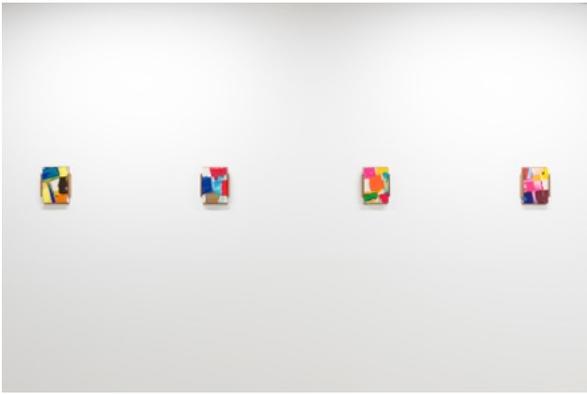
④ 《「手出しをするな。ということこそ、私たちにとって唯一の言葉である」ぐんぐん近づいてきたのよ。でもこなかった。音もしなかったし、まだ明るかった。そんなにあまり呼ばないで。いま自分から行こうとしているのだから。なんであんなことを彼が言っていたのかわかったわ。然るにその日の午後になって、わたしたちの住んでいる住宅地のすぐ近くに、落ちたのです。ええ、私のしている人は一人だけです。熱エネルギーの移動。これだけは自然のなりゆきにまかせるよりほかはない。いや、やはりそれは自然のしわざではない、化学者のしわざです。「手の下しようもなく、お行儀がいい。だからどうかわたしを日陰におかないで。」あんなことを、なんで彼が言っていたのか分かるでしょう?》

1990-91年 鋼、木 大阪中之島美術館蔵



⑤ 《テウミンとたみをとむらって バツサイとつみをきりしは》
2000年 セラミック 東京国立近代美術館蔵

右《「あなたなら聞かえるでしょう。おばさん」婦人はもの思いにふけるかのようにおし黙っていたけれど、ついに彼女は壁に向かって大きなあくびをしよう。その口を瞬間に彼女自身の手が蓋をする。壁には月光をあびた窓の形がくつきりと浮きでている。葉を落とした木々の裸の枝組みがかすかに揺れながら、その上に影を落とす。遠くで電話が鳴り、壁一枚隔てた隣室から誰かの声が聞こえた。同時に同じ場所のふたつの相反する悩みに心が奪われているだろう。自分の顔が見えたなら、すべては理解できるはずなのに。「自分の名前まで忘れちゃった。でも、この部屋に誰が住んでるのかは知ってるわ」



⑥左から《出来／ルーテルの食卓》
 《河内(ハノイ)／地球上ではじめての聲》
 《瑠璃／西方の滌刺》
 《戸口／雑巾と棕櫚の靴拭い》
 2015年 アクリル、カンヴァス 作家蔵



⑨《Physiognomy》2016年 インク、紙
 株式会社タグチプロジェクト蔵



⑦《ポンチ絵》2014年 色鉛筆、紙 個人蔵



⑩左《あなたはこの水を乾かし、あるいは飲み干すだろう。けれど決して水は減びない。水は姿を変え移動しただけである。水は乾くことなく、水がのどの渇きを癒すのだ。と似て、わたしの指一本いや手足を切り落とそうと、わたしは切り落せない。姿を変える勝手気ままが水ではなく、わたし(の赤い水、血)ではない。水の中に水の姿に関わらぬ何か、として水の霊が宿っている(水が弾きだす波と早合点しないように。波は音楽のようにあちこち拡がり増えたり減ったりするが、水の霊は増減せず分割もされない)。わたしは水の中にあり、泳ぎ、まどろみ、そして目覚める。》
 右《宙空の箒／アウフヘーベン》
 2016年 アクリル、カンヴァス 個人蔵



⑧《タメになるってどういう意味？／狐の才気》
 2018年 アクリル、カンヴァス BBar collection